

# NSG グループ

## 2024年3月期 第2四半期決算報告

(2023年4月1日～ 2023年9月30日)

日本板硝子株式会社  
2023年11月9日

## 細沼 宗浩

代表執行役社長 兼 CEO

## 大河内 聡人

執行役常務 CFO

# 目次

1. 2024年3月期 第2四半期決算概要
2. 2024年3月期 業績予想について
3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗
4. 次期中期経営計画の策定について
5. まとめ

CFOの大河内です。

3ページは本日のご説明内容になります。

本日は始めに2024年3月期の第2四半期決算概要および2024年3月期の業績予想について、そしてCEOの細沼よりリバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗、さらに来年度よりはじまる次期中期経営計画の策定についてご説明いたします。

# 1. 2024年3月期 第2四半期決算概要

# 連結損益計算書



前年同期比で増収増益を継続し、上期業績予想を達成。  
市場金利の上昇に伴い金融費用が増加

(億円)	7-9月期 (3か月)			累計 (6か月)			上期業績 予想
	2023年 3月期	2024年 3月期	差異	2023年 3月期	2024年 3月期	差異	
売上高	1,977	<b>2,122</b>	145	3,757	<b>4,202</b>	445	4,200
営業利益	62	<b>115</b>	53	144	<b>260</b>	116	190
営業利益率	3.1%	<b>5.4%</b>	+2.3pt	3.8%	<b>6.2%</b>	+2.4pt	4.5%
個別開示項目 (純額)	△ 473	<b>11</b>	483	△ 449	<b>3</b>	452	0
個別開示項目後営業利益	△ 411	<b>125</b>	536	△ 305	<b>263</b>	568	190
金融費用 (純額)	△ 37	<b>△ 77</b>	△ 39	△ 66	<b>△ 140</b>	△ 75	△ 130
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	-	-	<b>37</b>	37	40
持分法による投資利益	10	<b>12</b>	2	32	<b>22</b>	△ 11	20
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	5	<b>△ 0</b>	△ 5	△ 7	<b>11</b>	19	10
税引前利益 (△損失)	△ 434	<b>61</b>	494	△ 345	<b>193</b>	539	130
当期利益 (△損失)	△ 403	<b>30</b>	433	△ 370	<b>105</b>	475	90
純利益 (△損失)*	△ 412	<b>27</b>	439	△ 388	<b>98</b>	486	80
EBITDA	161	<b>226</b>	65	342	<b>480</b>	138	

建築用および自動車用で増収増益を継続

【売上高および営業利益 (事業別) : 前年同期比】

(億円)	売上高	営業利益
建築用	+108	+63
自動車用	+333	+80
高機能	△3	△17
その他	+7	△10
<b>グループ全体</b>	<b>+445</b>	<b>+116</b>

前年は欧州自動車用ガラス事業ののれんと無形資産の減損損失を計上

欧米の市場金利上昇に伴い金融費用が増加

第1四半期にロシアVの売却に伴い、過去に計上した金融債権および投資に対する減損損失の戻入益を計上

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

5

まず、5ページの連結損益計算書からご説明いたします。

ご覧の表の左側が第2四半期 (3か月) の業績、  
真ん中が上期累計 (6か月) の業績、その右側が上期予想になります。

当第2四半期 (7-9月期) の売上高は、  
自動車用ガラス事業および建築用ガラス事業を中心に増収となり  
前年同期比145億円、7%の増収で2,122億円でした。  
上期累計でも前年同期比445億円、12%の増収で  
4,202億円と上期業績予想通りとなりました。

営業利益は、前年同期比53億円、86%増益で115億円でした。  
世界的なインフレ傾向に伴う原材料費や人件費等その他コスト高騰の影響  
および販売数量減少の影響を受けましたが、販売価格の改善と  
前年同期比でエネルギー価格が下落したため、増益を継続しました。  
上期累計では前年同期比116億円、80%増益で260億円と  
前回上方修正した上期業績予想の190億円を達成しました。  
営業利益率は、事業・地域のポートフォリオ分散が功を奏し、  
前年同期比2.4ポイント改善、6.2%となっています。

営業利益より下の項目を見て頂くと、個別開示項目収益は3億円でした。  
前年度第2四半期は、欧州自動車用ガラス事業ののれんと無形資産の減損損失  
488億円を計上していたため前年同期から452億円の改善となりました。

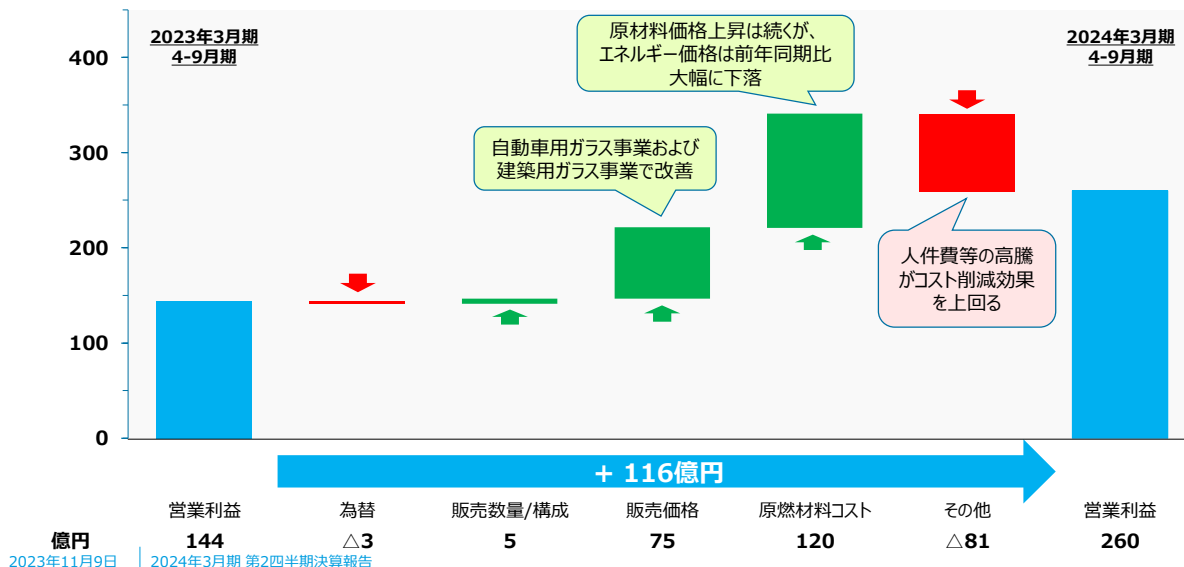
金融費用は、欧米の市場金利上昇に伴い前年同期比75億円増となり、  
純額で140億円でした。

持分法適用会社については、  
第1四半期に、ロシアにおけるジョイント・ベンチャーを売却しました。  
これに伴い、過去に計上した持分法適用会社に対する金融債権の減損損失の  
戻入益37億円を計上し、また投資の一部に対する過去の減損損失の戻入益を  
計上したため、持分法投資に関するその他の利益は11億円となりました。

以上、営業利益と持分法適用会社に関する利益を認識した結果、  
上期累計の税引前利益は193億円、当期利益は105億円、純利益は98億円と  
前年同期比増益、かつ上期業績予想を達成しました。

## 営業利益差異分析（上期累計）

エネルギー価格は前年同期比で大幅に下落。  
販売価格改善もあり原材料費およびその他コスト増加の影響を吸収



続きまして6ページは、上期の営業利益について前年度第2四半期累計の営業利益144億円と、当第2四半期累計の営業利益260億円との差異、116億円の差異分析です。

「為替」は、アルゼンチンペソが円に対して下落した影響を受け3億円のマイナスでした。

「販売数量/構成」は、高機能ガラス事業と建築用ガラス事業で悪化したものの、自動車用ガラス事業の改善で吸収し、5億円のプラスとなりました。

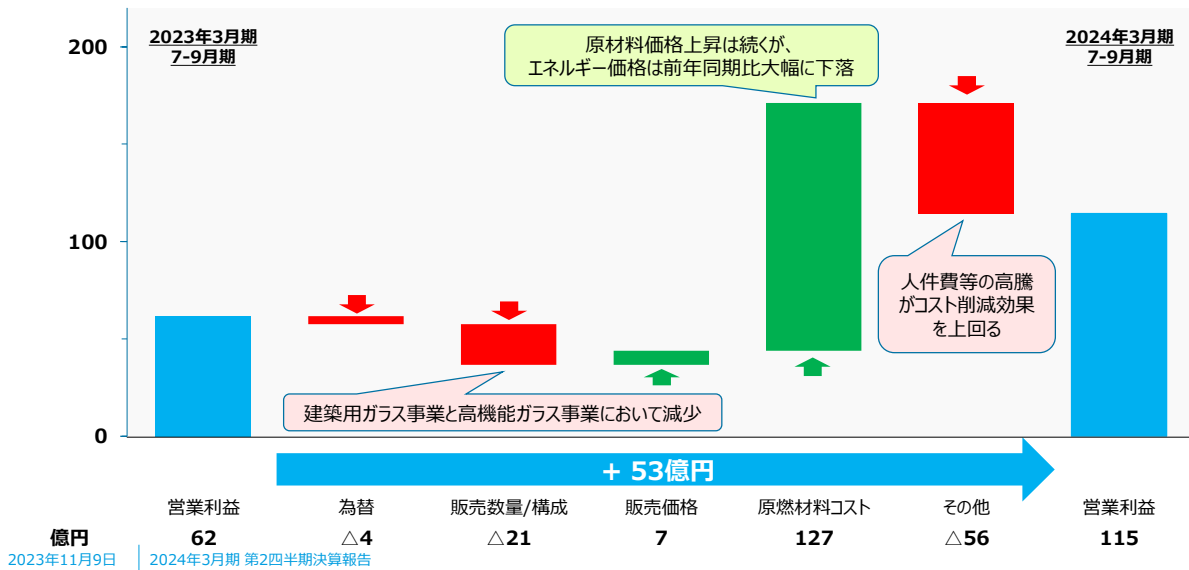
「販売価格」は、75億円のプラスで、これは自動車用ガラス事業と建築用ガラス事業で価格が改善したことによるものです。

「原燃材料コスト」は、120億円のプラスでした。原材料価格上昇の影響を受けましたが、欧州の天然ガス価格を中心にエネルギー価格が特に7-9月期に前年同期比で大幅に下落したことによるプラスの影響が上回りました。

「その他」は、81億円のマイナスとなりました。世界的なインフレ傾向を受け、人件費などのコストが上昇し、リバイバル計画24（RP24）の施策であるコスト構造改革等の成果を上回りました。

# 営業利益差異分析 (7-9月期)

販売数量減少とその他コスト増加の影響をエネルギー価格の前年同期比下落が軽減



7ページは、第2四半期の営業利益について前年度第2四半期の営業利益62億円と、当第2四半期の営業利益115億円との差異、53億円の差異分析です。

「為替」は、アルゼンチンペソが円に対して下落した影響を受け4億円のマイナスでした。

「販売数量/構成」は、自動車用ガラス事業で販売数量が増加したものの、建築用ガラス事業と高機能ガラス事業における販売数量が減少したため21億円のマイナスとなりました。

「販売価格」は、7億円のプラスでした。

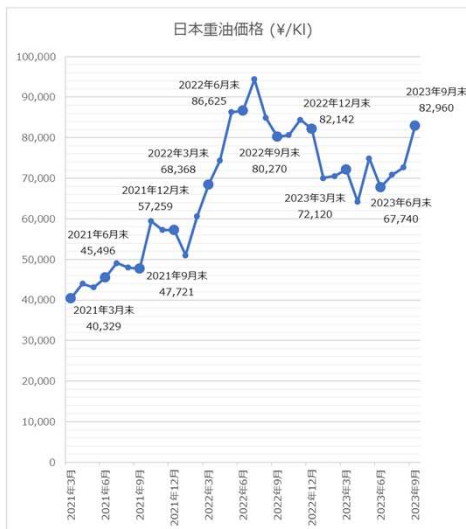
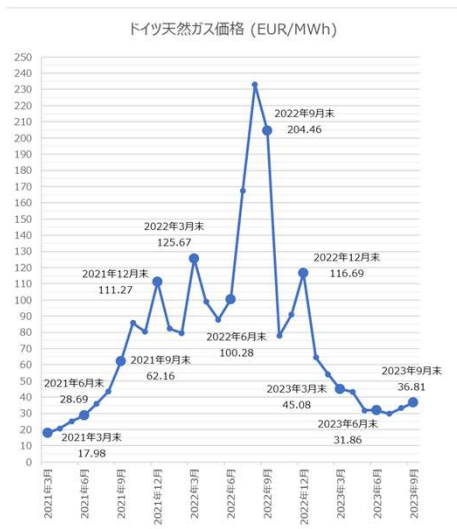
「原燃材料コスト」は、127億円のプラスでした。原材料価格上昇の影響は続きましたが、欧州の天然ガス価格を中心にエネルギー価格が前年同期比で大幅に下落したため大きくプラスとなりました。

「その他」は、56億円のマイナスとなりました。世界的なインフレ傾向を受け、人件費などのコストが上昇し、リバイバル計画24（RP24）の施策であるコスト構造改革等の成果を上回りました。



# エネルギー価格の推移

ドイツの天然ガス価格：第1四半期に下落して以降、安定的に推移  
日本の重油価格：第2四半期において再び上昇傾向



2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

続きまして、8ページでエネルギー価格の推移を示しています。

左側がドイツの天然ガスの市場価格の推移、  
右側が日本の重油の市場価格の推移になります。

ドイツにおける天然ガスの価格は第1四半期に下落して以降、  
第2四半期は安定的に推移しました。  
日本における重油価格は第2四半期において再び上昇傾向となりました。

# ガラス価格の推移

## 市場環境の減速に伴い、ドイツガラス価格も低下



2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

次の9ページはドイツのガラスの市場価格の推移になります。

天然ガス価格の安定的な推移と市場環境の減速を受け市場価格は低下していますが、原材料およびその他コストの上昇を吸収可能な水準で推移しました。後ほどご説明しますが、欧州の建築用ガラス事業は増益となっています。

# 連結貸借対照表



自己資本比率は12.6%と前期末比で2.4pt改善。  
 RP24の目標数値である10%超を維持

(億円)	2023年 3月末	2023年 9月末	増減
<b>資産合計</b>	<b>9,514</b>	<b>10,018</b>	<b>504</b>
非流動資産	6,151	6,582	431
流動資産	3,363	3,437	73
<b>負債合計</b>	<b>8,265</b>	<b>8,442</b>	<b>177</b>
流動負債	3,844	3,263	△ 581
非流動負債	4,421	5,179	758
<b>資本合計</b>	<b>1,249</b>	<b>1,576</b>	<b>328</b>
親会社の所有者に帰属する持分	970	1,265	295
<b>自己資本比率 (%)</b>	<b>10.2%</b>	<b>12.6%</b>	<b>+2.4pt</b>
<b>ネット借入</b>	<b>4,079</b>	<b>4,548</b>	<b>469</b>

為替影響による有形固定資産の増加

短期借入金から長期借入金へのシフト

純利益の計上および為替影響。自己資本比率12%超

主に運転資本の増加に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスおよび円安影響により借入金が増加

10ページは連結貸借対照表になります。

2023年9月末時点の総資産は1兆18億円となり  
 2023年3月末時点から504億円増加しています。

非流動資産は、円安の影響を受け有形固定資産が増加した結果  
 431億円の増となりました。

流動負債は、短期借入金から長期借入金へのシフトにより  
 581億円の減となる一方で、非流動負債は758億円増加しました。

親会社の所有者に帰属する持分は、純利益の計上に加え  
 為替の影響もあり295億円増加し、1,265億円でした。

この結果、自己資本比率は前期末比で2.4ポイント上昇の12.6%となり、  
 RP24の財務目標数値である自己資本比率10%以上を維持できています。

ネット借入は、主に運転資本の増加に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスと  
 円安の影響により借入金が増加したため、469億円増加しました。

# 連結キャッシュ・フロー計算書



フリー・キャッシュ・フローは運転資本の増加に伴いマイナスだが、7-9月期はプラス。  
通期でRP24の目標数値である100億円以上を目指す

(億円)	7-9月期 (3か月)			4-9月期累計 (6か月)		
	2023年 3月期	2024年 3月期	差異	2023年 3月期	2024年 3月期	差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	146	209	63	114	34	△ 81
(うち、運転資本の増減)	47	71	25	△ 154	△ 313	△ 159
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 113	△ 79	34	△ 209	△ 220	△ 10
(うち、有形固定資産の取得)	△ 100	△ 140	△ 40	△ 191	△ 278	△ 87
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>34</b>	<b>130</b>	<b>97</b>	<b>△ 95</b>	<b>△ 186</b>	<b>△ 91</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5	△ 51	△ 45	15	1	△ 14
現金及び現金同等物の増減	28	80	51	△ 80	△ 185	△ 105
現金及び現金同等物 期末残高				552	552	△ 0

7-9月期は運転資本が改善

戦略投資の増加および為替影響

累計でも、運転資本の増加を除くとプラス。  
通期でRP24の目標数値である100億円以上を目指す

11ページは、連結キャッシュ・フロー計算書です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、上期6か月間では、  
運転資本増により前年同期より81億円の減で、34億円のプラスでした。  
一方、当第2四半期（7-9月期）の3か月間では、前年同期より63億円の増で  
209億円のプラスと改善傾向にあります。  
これは主に四半期利益の計上と運転資本の改善によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、  
累計で前年同期比マイナスが10億円増加し220億円のマイナスでした。  
主に、マレーシアにおける太陽電池パネル用ガラスへの設備投資をはじめとした  
戦略事業への投資が増加したこと、  
円安もあり有形固定資産の取得が増加したためです。

以上により、上期累計のフリー・キャッシュ・フローは186億円のマイナスとなりましたが、  
当第2四半期では130億円のプラスと改善傾向にあります。  
前年に引き続き通期ではRP24の財務目標である  
フリー・キャッシュ・フロー100億円以上を目指します。

# セグメント情報



(億円)	2022年3月期 4-9月期			2023年3月期 4-9月期			2024年3月期 4-9月期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
<b>建築用ガラス事業</b>	<b>1,320</b>	<b>45%</b>	<b>136</b>	<b>1,821</b>	<b>48%</b>	<b>155</b>	<b>1,929</b>	<b>46%</b>	<b>218</b>	<b>108</b>	<b>63</b>
欧州	549	19%		788	21%		735	18%		△ 53	
アジア	403	14%		490	13%		548	13%		59	
米州	369	13%		543	14%		646	15%		103	
<b>自動車用ガラス事業</b>	<b>1,352</b>	<b>47%</b>	<b>△ 11</b>	<b>1,719</b>	<b>46%</b>	<b>△ 17</b>	<b>2,052</b>	<b>49%</b>	<b>63</b>	<b>333</b>	<b>80</b>
欧州	591	20%		699	19%		838	20%		139	
アジア	280	10%		324	9%		383	9%		59	
米州	482	17%		696	19%		831	20%		135	
<b>高機能ガラス事業</b>	<b>217</b>	<b>7%</b>	<b>57</b>	<b>202</b>	<b>5%</b>	<b>57</b>	<b>199</b>	<b>5%</b>	<b>40</b>	<b>△ 3</b>	<b>△ 17</b>
欧州	39	1%		46	1%		50	1%		4	
アジア	172	6%		148	4%		140	3%		△ 8	
米州	6	0%		8	0%		9	0%		0	
<b>その他</b>	<b>18</b>	<b>1%</b>	<b>△ 56</b>	<b>15</b>	<b>0%</b>	<b>△ 51</b>	<b>22</b>	<b>1%</b>	<b>△ 61</b>	<b>7</b>	<b>△ 10</b>
<b>合計</b>	<b>2,907</b>	<b>100%</b>	<b>127</b>	<b>3,757</b>	<b>100%</b>	<b>144</b>	<b>4,202</b>	<b>100%</b>	<b>260</b>	<b>445</b>	<b>116</b>

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

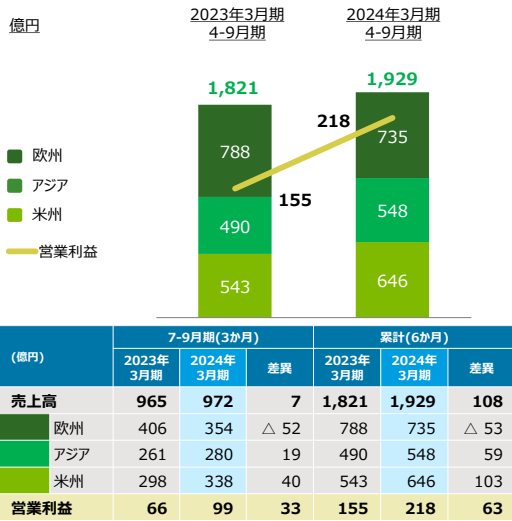
12

12ページは、事業セグメント毎に過去3か年度の上期累計の売上高および営業利益を示しています。各事業の詳細については次ページ以降のスライドでご説明します。

# 建築用ガラス事業 (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)



欧州で販売数量減少だが、その他の地域での強い需要により増収。  
エネルギー価格が下落、販売価格の改善もあり原材料およびその他コスト上昇を吸収し、増益



## 欧州 (累計：減収・増益 7-9月期：減収・増益)

- 経済活動の減速に伴い販売数量が減少
- 原材料およびその他コスト上昇と販売数量減少の影響はエネルギー価格の下落により軽減

## アジア (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)

- 日本では需給改善に伴い販売価格および販売数量が改善
- その他の東南アジアでは競争が続き販売価格が低下
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

## 米州 (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)

- 北米は第2四半期に市場減速を反映して需要が軟化したのが、販売価格は上昇
- 南米は強い需要が継続、アルゼンチンの新フロート窯稼働もあり販売数量増加
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

13

13ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、欧州で販売数量が減少しましたが、アジアや米州においては強い需要が継続し、増収となりました。営業利益は、原材料費および人件費等その他コスト上昇の影響を受けましたが、エネルギー価格が前年同期比で大幅に下落したこと、販売価格の改善もあり増益でした。

欧州は、減収増益となりました。中長期的には新築のみならずリフォームによる底堅い需要が見込まれるものの、インフレの進行と金利上昇により経済活動の減速が続き、販売数量が減少しました。一方でエネルギー価格が前年同期比で大幅に下落したため、インフレ傾向を反映した原材料費や人件費を中心としたその他コストの上昇を軽減し、増益となりました。

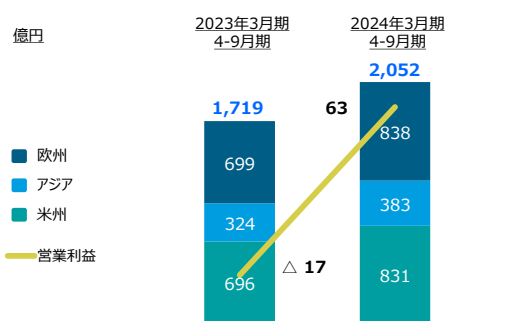
アジアは、増収増益でした。日本では、断熱ガラスに対する政府補助金制度の施行等による需給の改善に伴い、引き続き販売価格と販売数量が改善しました。その他の東南アジアの国々では、競争が依然続き、販売価格が低下しています。太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調に推移しています。マレーシアでの太陽電池パネル用ガラスの新設備建設も完了し、2023年12月からの生産開始を予定しています。

米州も、増収増益となりました。北米は、第2四半期において市場減速を反映して需要が軟化しましたが、燃料サーチャージ制とインフレもあり販売価格は上昇しました。

南米は、強い需要が継続しており、前年度第3四半期に稼働したアルゼンチンの新フロート窯による販売数量増加も、収益に寄与しました。太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調です。

# 自動車用ガラス事業 (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)

販売数量増加および販売価格改善により全地域で増収増益



欧州 (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)  
 アジア (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)  
 米州 (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)

- 部品不足による自動車生産制約の影響が緩和し、多くの地域で販売数量が増加
- 原材料およびその他コスト増加を転嫁するための価格改善交渉がさらに進捗、販売価格が改善
- 引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を推進

(億円)	7-9月期(3か月)			累計(6か月)		
	2023年 3月期	2024年 3月期	差異	2023年 3月期	2024年 3月期	差異
売上高	903	1,043	139	1,719	2,052	333
欧州	362	413	51	699	838	139
アジア	179	204	26	324	383	59
米州	362	426	63	696	831	135
営業利益	△ 10	31	41	△ 17	63	80

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

14

14ページは自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業は、当第2四半期も引き続き増収増益で、着実に収益改善が進捗しています。

サプライチェーンの問題による自動車生産の制約が緩和し、多くの地域で販売数量が増加しています。

また、原材料および人件費等その他コスト上昇の影響を緩和するための自動車メーカーに対する価格改善交渉もさらに進展し、全地域で販売価格が改善しました。

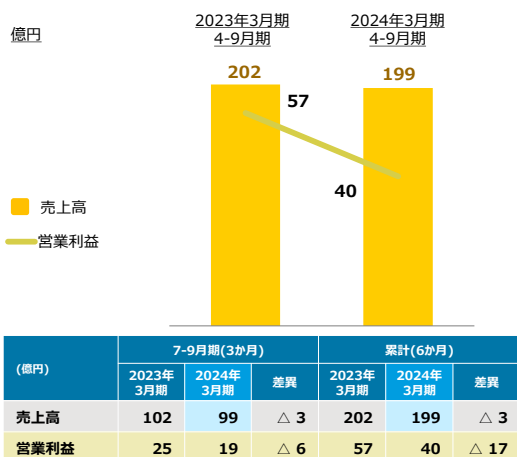
引き続き継続的なコスト削減努力や製品の高付加価値化とともに販売価格改善も進め、収益性改善に努めてまいります。



# 高機能ガラス事業 (累計：減収・減益 7-9月期：減収・減益)



IT市場減速の影響を受け減収。  
原燃材料およびその他コスト上昇と売上構成の悪化により減益



- ファインガラスでは、IT市場減速の影響を受け販売数量が減少し売上構成も悪化
- プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業向けの需要が減少
- グラスコードは自動車生産制約の緩和に伴い回復
- メタシャイン® は自動車塗料および化粧品向けで増加

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

15

続きまして15ページです。

高機能ガラス事業は、  
売上高はIT市場減速の影響を受け減収でした。  
営業利益は原燃材料およびその他コスト上昇と  
売上構成悪化の影響を受け、減益となりました。

ファインガラスは、IT市場減速の影響を受け販売数量が減少し、  
売上構成の悪化もあり収益性が低下しました。

プリンター用レンズは、在宅勤務およびオンライン授業向けの需要が減少したことに伴い、  
販売数量が減少しました。

グラスコードの販売数量は、取引先におけるサプライチェーンの問題が  
解消したことに伴い回復しました。

メタシャイン®は自動車塗装および化粧品向けで売上高が増加しました。

## 2. 2024年3月期 業績予想について

## 2024年3月期 業績予想

当初想定を上回る上期業績を踏まえ、通期利益予想を上方修正。  
2008年のリーマンショック以降、営業最高益を目指す

(億円)	2024年3月期 上期予想 (前回)	2024年3月期 上期実績	2024年3月期 通期予想 (前回)	2024年3月期 通期予想 (今回)	増減	2023年3月期 通期実績 (参考)
売上高	4,200	4,202	8,400	8,400	-	7,635
営業利益	190	260	350	420	70	348
個別開示項目(純額)	0	3	0	0	-	△ 452
個別開示項目後営業利益 (△損失)	190	263	350	420	70	△ 103
金融費用(純額)	△ 130	△ 140	△ 260	△ 290	△ 30	△ 174
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	40	37	40	40	-	-
持分法による投資利益	20	22	60	50	△ 10	73
持分法投資に関する その他の利益(△損失)	10	11	10	10	-	△ 15
税引前利益(△損失)	130	193	200	230	30	△ 219
当期利益(△損失)	90	105	130	140	10	△ 310
純利益(△損失)*	80	98	110	120	10	△ 338

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益(△損失)

17

続いて2024年3月期の業績予想です。  
スライド17ページは2024年3月期の通期業績予想になります。

表の左側から、2024年3月期の前回上期予想、上期実績、  
前回通期予想、今回通期予想と増減、前年2023年3月期通期実績と並んでおります。

今般、上期実績を踏まえ、2024年3月期通期の営業利益、税引前利益、当期利益、  
純利益の予想をそれぞれ上方修正しました。

営業利益は、前回予想から70億円増の420億円を予想しますが、  
コロナ禍以前の水準を上回り、2008年のリーマンショック以降の最高益を目指します。  
これは主に建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業で上期の実績が  
想定を上回ったためです。  
金融費用は市場金利の上昇に伴い増加を想定しており、通期で290億円と見えています。  
純利益は前回予想から10億円増の、120億円を予想しています。

数値予想の前提は、次のスライドでご説明いたします。

# 2024年3月期 業績予想の前提

<b>グループ</b>	<b>上期実績を踏まえ通期の営業利益・税引前利益・当期利益・純利益予想を上方修正 RP24の最終年にあたり、引き続き重点施策「財務基盤の回復」を推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>円安が継続する見込み</li> <li>エネルギー価格は落ち着くものの、世界的なインフレ拡大等で原材料やその他コスト増加は継続</li> <li>金利上昇による潜在的な景気後退などのリスクにより事業環境は依然不透明</li> <li>金融費用が増加</li> </ul>
<b>建築用ガラス</b>	<b>全般的に良好な需給環境継続を期待、一方で欧米を中心に景気後退懸念</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>欧州：景気減速により販売数量減少を見込むが、投入コスト増加を軽減するための価格転嫁も継続。エネルギー価格は安定して推移</li> <li>アジア：日本の数量および価格が回復するが、その他の東南アジア地域での競合が続く見込み</li> <li>北米：販売価格は良好な水準が続くが、マクロ経済が販売数量に影響を与える可能性</li> <li>南米：タイトな需給環境が継続、アルゼンチンの新フロート窯の通年稼働が貢献</li> <li>太陽電池パネル用ガラス：堅調な需要が続き、マレーシアで生産設備が2023年12月より稼働予定</li> </ul>
<b>自動車用ガラス</b>	<b>原燃材料費高騰の影響が続くが、販売数量は増加する見込み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>全地域で引き続き在庫積み上げが継続し強い自動車需要をけん引する見込み</li> <li>自動車生産の制約解消に伴い販売数量が徐々に回復していく見込み</li> <li>自動車メーカーと、投入コスト増加を軽減するための価格改善交渉を継続</li> <li>引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善により更なる収益性改善を目指す</li> </ul>
<b>高機能ガラス</b>	<b>コスト上昇およびIT市場の減速に伴う需要減少の影響が続き、利益率低下</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファインガラスは、市場減速の影響が継続する見込みだが、コスト削減を継続</li> <li>プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業に伴う需要減少により販売数量減少が継続</li> <li>グラスコードは、自動車生産の制約解消に伴い販売数量が徐々に回復していく見込み</li> </ul>

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

スライド18に移ります。

グループ全体の前提としては、円安が継続する一方で、エネルギー価格は落ち着くものの、世界的なインフレ拡大などの影響を受け原材料や人件費等その他のコストが増加すると見えています。また、欧米を中心とした金利上昇に伴う潜在的な景気後退などのリスクにより、事業環境は依然不透明な状況が続き、金融費用も増加を見込んでいます。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業は、欧州においては、天然ガスを中心とした燃料価格は落ち着くものの、原材料費高騰が継続すると見えています。これらの影響は、販売価格への転嫁で軽減しますが、販売数量が減少する見込みです。アジアでは、需給環境の改善に伴い、日本では数量増加と値上げ効果も継続すると見えています。一方でその他の東南アジア地域では引き続き競合が続くと見ており、状況を注視する必要があります。北米では、販売価格は良好な水準が期待されるものの、利上げによる景気後退が懸念されます。南米ではタイトな需給環境が継続、アルゼンチンの新フロート窯の通年稼働が貢献する想定です。太陽電池パネル用ガラスは、堅調な需要を継続すると見込んでいます。なお、マレーシアでオンラインコーティング設備の建設は完了し、2023年12月に稼働開始予定です。

自動車用ガラス事業では、  
原燃材料費高騰の影響は続きますが、  
全地域で強い自動車需要と在庫積み上げの動きが継続するため  
販売数量が増加する見込みです。  
また、自動車メーカーとの価格改善交渉は継続する計画です。  
引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を進め、  
更なる収益力の向上を目指します。

高機能ガラス事業では、  
投入コスト上昇およびIT市場の減速に伴う需要減少の影響を受けます。  
価格改善を継続していくものの、  
高騰した原燃材料費やその他の費用を吸収するには至らず  
利益率が低下しますが、  
依然比較的高い利益率を確保できると見えています。

RP24の最終年度として、全社的なコスト削減、高付加価値製品の拡大および  
価格改善により潜在的なリスクの影響を軽減し、  
引き続き収益性の改善と通期業績予想の達成に注力してまいります。

ここでCEOの細沼に代わり、リバイバル計画24（RP24）の進捗、および  
次期中期経営計画の策定についてご説明致します。

### 3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗

# リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗



持続的な成長が可能な事業体質を目指し主要施策を推進

## 3つの改革

### ● 事業構造改革

- ・ アルゼンチン2基目の新フロート窯が収益に貢献
- ・ マレーシアの既存フロート窯で、太陽電池パネル用ガラスのオンラインコーティング設備建設および火入れ完了（2023年12月より生産開始予定）
- ・ 米国でも太陽電池パネル用ガラスの生産能力拡大に向けて検討中



マレーシアの太陽電池  
パネル用ガラス製造設備

## 2つの重点施策

### ● 財務基盤の回復

- ・ 営業利益率 : 原材料費高騰の下、コスト削減、高付加価値製品の拡大、販売価格上昇により6.2%
- ・ 純利益 : 好調な業績および第1四半期のジョイント・ベンチャー売却に伴う戻入益の計上もあり、上期累計で98億円
- ・ 自己資本比率 : 純利益計上もあり前期末から2.4pt改善し12.6%と目標数値である10%を上回る
- ・ FCF : 第2四半期はプラス。累計でも運転資本増加を除くとプラス、通期での目標数値である100億円以上達成を目指す

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

RP24 説明資料:

[https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021\\_j01.pdf](https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf)

20

CEOの細沼です。

リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革について、  
20ページと21ページで主要な進捗を説明します。

2024年3月期も中期経営計画RP24の最終年として主要施策を継続、  
推進しています。

RP24では持続的な成長が可能な事業体質を目指して  
「3つの改革」と「2つの重点施策」を掲げています。

「3つの改革」の中の一つである「コスト構造改革」では、営業利益率の改善を目指し  
「改革・改善」活動を中心としたコスト削減を継続しています。

「事業構造改革」では、高付加価値事業の拡大・新規成長分野の育成を進めています。  
アルゼンチンで2基目となる新フロート窯が前年度第3四半期から生産を開始し、  
収益に貢献しています。

太陽電池パネル用ガラスはすでに当社の収益とともに環境にも貢献していますが、  
ファーストソーラー社のアジアでの生産能力拡張方針に沿って  
マレーシアの既存フロート窯にオンラインコーティング設備を新設する建設工事が  
完了しました。

10月に火入れも完了し、2023年12月の生産開始を予定しています。  
また米国においても、ファーストソーラー社の米国での生産能力拡張方針に沿って、  
太陽電池パネル用ガラスの生産能力拡大に向けて検討中です。

続いてRP24に基づく構造改革の「2つの重点施策」の「財務基盤の回復」についてご説明します。

「財務基盤の回復」についてはRP24の財務目標数値として営業利益率8%、純利益3年累計300億円、自己資本比率10%、フリー・キャッシュ・フロー100億円の目標を設定し、推進しています。

営業利益率は原材料およびその他コスト上昇の中、コスト削減、高付加価値製品の拡大、販売価格上昇により6.2%でした。  
純利益についても、好調な業績や第1四半期においてロシアにおけるジョイント・ベンチャー売却に伴う戻入益の計上もあり、上期累計で98億円となっています。  
自己資本比率は前期末から2.4ポイント改善し12.6%となり、財務目標数値超を維持しています。  
フリー・キャッシュ・フローは第2四半期ではプラス、累計でも運転資本増加を除くとプラスでした。  
通期での目標数値である100億円以上の達成を目指します。



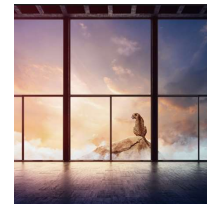
# リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗



## RP24の最終年にあたり、引き続きサステナビリティへの取り組みを推進

### サステナビリティへの取り組み

- 十分に持続可能なサプライチェーンを確立・発展させることを目的に、長期的な方針とコミットメントをまとめた「NSGグループ サステナブル・サプライチェーン憲章」を発表
- CO<sub>2</sub>排出量を50%削減\*した建築用ガラス製品「Pilkington Mirai™」を欧州で販売開始  
\*従来の当社製品比
- サステナビリティ目標達成に連動した借入契約を締結、グループの温室効果ガス削減目標、およびカーボンニュートラルの達成を目指すことで、事業戦略の遂行とサステナビリティ推進の両立を目指す



Pilkington Mirai™  
イメージビジュアル

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

RP24 説明資料:

[https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtrpr24presentation2021\\_j01.pdf](https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtrpr24presentation2021_j01.pdf)

21

続きまして、「サステナビリティへの取り組み」の主要な進捗状況についてです。  
気候変動をはじめとする環境問題への取り組みは  
当社グループの持続的成長の実現に向けた大きな経営課題であると認識しており、  
RP24においても取り組みを推進しています。

当社はサプライチェーンから発生する温室効果ガスの排出量（スコープ3）についても、  
2050年のカーボンニュートラル達成を目標に掲げており、これを実現するには、  
サプライチェーン開発にも取り組む必要があります。  
この度当社グループは、気候変動への対応をはじめとする持続可能性目標の達成に  
向けた行動をサプライヤーの皆様と協力して強化・加速するため、  
「NSGグループ サステナブル・サプライチェーン憲章」を制定しました。

また、当社従来製品と比較し、カーボンフットプリントを50%削減したLowカーボンガラス  
「Pilkington Mirai™」を欧州地域で販売を開始しました。  
フロート板ガラスとして、この50%レベルのCO<sub>2</sub>削減量は「世界最高水準」となります。  
日本語を由来に名付けられた製品名には、  
建物の「未来」を支える次世代ガラス製品として、  
サステナブルな社会に寄与することを目指す当社グループの思いが込められています。

さらに、グループのサステナビリティ目標に連動した借入契約を締結しました。  
2件の借入契約で設定されたサステナビリティ目標は、  
当社グループの温室効果ガス削減目標  
およびカーボンニュートラル達成目標に沿ったものであり、この達成を目指すことで、  
事業戦略の遂行とサステナビリティ推進の両立に繋げてまいります。

これらの取り組みにより事業の脱炭素に向けた活動を加速させ、「高付加価値の『ガラス製品とサービス』で社会に貢献するグローバル・ガラスメーカー」として中期ビジョンにおける3つの貢献分野のうちの1つである「地球環境の保護」に貢献することを目指します。

## 4. 次期中期経営計画の策定について

# 次期中期経営計画の策定について

現中期経営計画 (RP24)  
~2024年3月期

構造改革が収益成長に結実

「コスト構造改革」  
+  
「事業構造改革」



営業利益は2008年の  
リーマンショック以降最高へ

2022年3月期 (実績) : 200億円  
2023年3月期 (実績) : 348億円  
2024年3月期 (予想) : 420億円

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

次期中期経営計画 (イメージ)  
2025年3月期~

4つの「D」(Decarbonization, Digital, Development, Diversity)  
をキーワードに、さらなる収益力強化、財務基盤改善を目指す

- **キャッシュ・フロー創出**
  - ・ 収益成長事業の拡大 (Decarbonization, Digital)
    - 建築用 : 太陽光発電パネル用ガラス  
リノベーション需要の取り込み
    - 自動車用 : CASEやEVに対応した高付加価値製品
    - 高機能 : 脱炭素化、高度情報化対応製品
  - ・ 研究開発・事業開発体制の強化 (Development)
- **ポラティリティ耐性向上**
  - ・ グループ経営基盤強化と効率化 (Digital Transformation)
  - ・ サプライチェーン見直しや余剰キャパシティ削減等の継続的な推進
- **サステナビリティ**
  - ・ 2050年カーボンニュートラル (Decarbonization)
  - ・ 人的資本経営、DEI (Diversity, Equity & Inclusion)
- **財務**
  - ・ PBRやROE改善等株主価値向上や資本コストを意識した経営
  - ・ 有利子負債削減、A種種類株式への対応、復配に向けた考え方

23

23ページでは次期中期経営計画の策定についてご説明します。

この2024年3月期は現中期経営計画RP24の最終年度であると同時に、  
来年度から始まる次期中期経営計画を策定する1年でもあり、  
グループの未来を創る非常に重要な1年です。  
次期中期経営計画は現在策定中ですが、現時点でのイメージを説明致します。

まず現中期経営計画RP24の下では、  
コスト構造改革や事業構造改革を中心とした構造改革が収益成長に結実し、  
営業利益も年々改善、業績予想においてご説明した通り  
この2024年3月期の営業利益予想は2008年のリーマンショック以降最高となっています。

これを踏まえ次期中期経営計画では、4つの「D」  
(Decarbonization, Digital, Development, Diversity) をキーワードに、  
さらなる収益力強化、財務基盤改善を目指します。  
収益力強化においては、  
特に将来の市場動向を見据えて有効と判断した収益成長事業に対して投資を行い、  
キャッシュ・フロー創出力を強化します。  
収益成長事業は「脱炭素化 (Decarbonization) 」と「デジタル (Digital) 」関連が  
重要であり、具体的には建築用ガラス事業においては  
太陽光発電パネル用ガラスやリノベーション需要に対応した複層ガラス、  
自動車用ガラス事業においてはCASEやEVに対応した赤外線反射ガラスや  
ヘッドアップディスプレイ付フロントガラスなど、  
高機能ガラス事業においては高弾性・高強度ガラスファイバーMAGNAVI®や  
低誘電フレークガラスなど二酸化炭素排出量削減や情報通信に貢献する  
高付加価値製品を提供することにより収益力強化を目指します。

このような収益成長事業を今後も強化していくためには新技術、新製品、新事業を「開発（Development）」していかなければなりませんので、研究開発・事業開発体制の強化に努めます。

財務基盤の改善については、「DX（Digital Transformation）」にこれまで以上に深く取り組むことによりグループとしての経営基盤の強化と効率化を図るとともに、引き続きサプライチェーンの見直しや余剰キャパシティの削減を推進することにより固定費を削減し、景気変動のボラティリティに対する耐性の向上を目指します。

またサステナビリティについても、

引き続き「2050年カーボンニュートラル（Decarbonization）」、人的資本経営、「DEI（Diversity, Equity & Inclusion）」を推進します。

Diversityは「開発（Development）」に欠かせない

新しいアイデアの源泉となる点からも重要です。

そして財務面では、東証からの要請もあるPBRやROEなど

株主価値向上や資本コストを意識した経営を目指します。

有利子負債の削減、A種種類株式への対応、復配に向けた考え方も

株主価値向上や資本コストに大きく影響すると認識しており、十分に検討して参ります。

## 5. まとめ

# まとめ

## 1. 2024年3月期 第2四半期決算

- 前年同期比増収増益を継続し、上期業績予想を達成。市場金利の上昇に伴い金融費用が増加
- エネルギー価格は前年同期比で大幅に下落。販売価格改善もあり原材料費およびその他コスト増加の影響を吸収
- 建築用ガラス事業の好調が継続、自動車用ガラス事業でも販売数量が回復、価格転嫁も進捗し収益改善
- グループ全体の営業利益率は6.2%。自己資本比率は12.6%、RP24の財務目標数値である10%超を維持

## 2. 2024年3月期 業績予想

- 上期実績を踏まえ通期利益予想を上方修正。2008年のリーマンショック以降、最高営業利益を目指す
- エネルギー価格は落ち着くものの、世界的なインフレ拡大等で原材料やその他コスト増加は継続
- 金利上昇による潜在的な景気後退などのリスクにより事業環境は依然不透明、金融費用も増加

## 3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗

- 事業構造改革 : 太陽電池パネル用ガラスのオンラインコーティング設備建設および火入れ完了  
(2023年12月より生産開始予定)  
アルゼンチン2基目の新フロート窯が収益に貢献
- 財務基盤の回復 : 好調な業績に伴い営業利益率はグループ全体で6%超に、自己資本比率も12%超  
RP24の最終年にあたり、引き続き重点施策「財務基盤の回復」を推進

## 4. 次期中期経営計画の策定について

- 4つの「D」をキーワードに、さらなる収益力強化、財務基盤改善を目指す

## ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境および競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社



# 補足資料



- 連結損益計算書 四半期別推移
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- セグメント情報
- 地域別売上高および営業利益
- 個別開示項目
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費

# 連結損益計算書 四半期別推移



(億円)	2022年 3月期				2023年 3月期				2024年 3月期	
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期
売上高	1,477	1,430	1,523	1,576	1,779	1,977	1,906	1,973	2,080	2,122
営業利益 (△損失)	72	55	18	55	83	62	97	107	146	115
営業利益率	4.8%	3.9%	1.2%	3.5%	4.6%	3.1%	5.1%	5.4%	7.0%	5.4%
個別開示項目 (その他)	△ 2	47	△ 2	△ 7	23	△ 473	10	△ 12	△ 8	11
個別開示項目後営業利益 (△損失)	70	102	17	48	106	△ 411	107	94	138	125
金融費用 (純額)	△ 29	△ 29	△ 32	△ 34	△ 28	△ 37	△ 48	△ 61	△ 64	△ 77
持分法適用会社に対する金融債権の減損損失の戻入益 (△損失)	-	-	-	△ 34	-	-	-	-	37	-
持分法による投資利益	15	19	22	19	22	10	21	20	10	12
持分法投資に関するその他の利益 (△損失)	-	-	-	△ 34	△ 12	5	△ 4	△ 4	11	△ 0
税引前利益 (△損失)	55	92	7	△ 36	88	△ 434	77	49	133	61
当期利益 (△損失)	29	67	10	△ 38	33	△ 403	22	38	75	30
純利益 (△損失)*	25	61	0	△ 45	24	△ 412	17	34	70	27
EBITDA	165	146	111	144	180	161	202	207	253	226

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

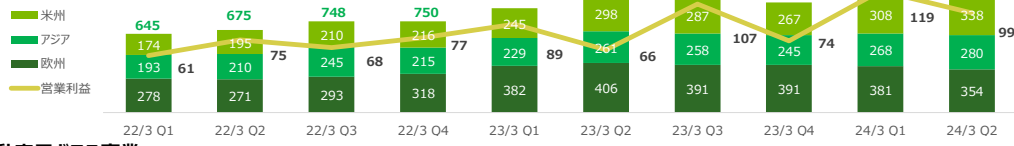
28

# 事業部門別・地域別売上高および営業利益 四半期別推移

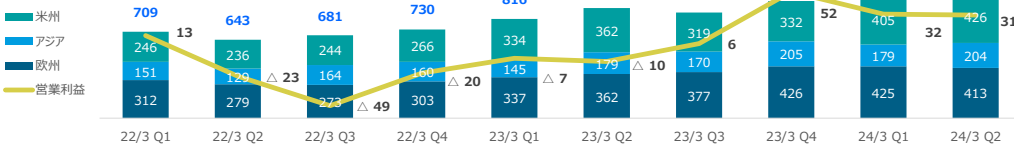


単位：億円

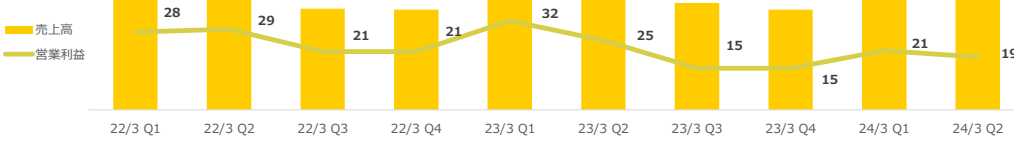
## 建築用ガラス事業



## 自動車用ガラス事業



## 高性能ガラス事業



# セグメント情報



(億円)	2022年3月期					2023年3月期					2024年3月期		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	累計
<b>売上高: 建築用ガラス</b>	<b>645</b>	<b>675</b>	<b>748</b>	<b>750</b>	<b>2,818</b>	<b>856</b>	<b>965</b>	<b>936</b>	<b>903</b>	<b>3,659</b>	<b>958</b>	<b>972</b>	<b>1,929</b>
欧州	278	271	293	318	1,160	382	406	391	391	1,571	381	354	735
アジア	193	210	245	215	862	229	261	258	245	992	268	280	548
米州	174	194	210	216	795	245	298	287	267	1,096	308	338	646
<b>営業利益</b>	<b>61</b>	<b>75</b>	<b>68</b>	<b>77</b>	<b>281</b>	<b>89</b>	<b>66</b>	<b>107</b>	<b>74</b>	<b>336</b>	<b>119</b>	<b>99</b>	<b>218</b>
<b>売上高:自動車用ガラス</b>	<b>709</b>	<b>643</b>	<b>681</b>	<b>730</b>	<b>2,762</b>	<b>816</b>	<b>903</b>	<b>866</b>	<b>963</b>	<b>3,547</b>	<b>1,009</b>	<b>1,043</b>	<b>2,052</b>
欧州	312	279	273	303	1,167	337	362	377	426	1,502	425	413	838
アジア	151	129	164	160	604	145	179	170	205	699	179	204	383
米州	246	236	244	266	992	334	362	319	332	1,347	405	426	831
<b>営業利益</b>	<b>13</b>	<b>△ 23</b>	<b>△ 49</b>	<b>△ 20</b>	<b>△ 79</b>	<b>△ 7</b>	<b>△ 10</b>	<b>6</b>	<b>52</b>	<b>41</b>	<b>32</b>	<b>31</b>	<b>63</b>
<b>売上高:高機能ガラス</b>	<b>114</b>	<b>103</b>	<b>91</b>	<b>90</b>	<b>398</b>	<b>99</b>	<b>102</b>	<b>96</b>	<b>90</b>	<b>388</b>	<b>100</b>	<b>99</b>	<b>199</b>
欧州	21	18	20	20	79	21	25	22	27	95	25	26	50
アジア	90	82	68	66	306	75	73	70	58	276	71	69	140
米州	3	3	3	4	13	4	5	4	4	16	4	5	9
<b>営業利益</b>	<b>28</b>	<b>29</b>	<b>21</b>	<b>21</b>	<b>99</b>	<b>32</b>	<b>25</b>	<b>15</b>	<b>15</b>	<b>87</b>	<b>21</b>	<b>19</b>	<b>40</b>
<b>売上高:その他</b>	<b>9</b>	<b>8</b>	<b>3</b>	<b>7</b>	<b>27</b>	<b>8</b>	<b>7</b>	<b>9</b>	<b>18</b>	<b>41</b>	<b>13</b>	<b>8</b>	<b>22</b>
<b>営業利益</b>	<b>△ 31</b>	<b>△ 25</b>	<b>△ 22</b>	<b>△ 24</b>	<b>△ 101</b>	<b>△ 31</b>	<b>△ 19</b>	<b>△ 31</b>	<b>△ 34</b>	<b>△ 115</b>	<b>△ 27</b>	<b>△ 34</b>	<b>△ 61</b>
<b>売上高:合計</b>	<b>1,477</b>	<b>1,430</b>	<b>1,523</b>	<b>1,576</b>	<b>6,006</b>	<b>1,779</b>	<b>1,977</b>	<b>1,906</b>	<b>1,973</b>	<b>7,635</b>	<b>2,080</b>	<b>2,122</b>	<b>4,202</b>
<b>営業利益</b>	<b>72</b>	<b>55</b>	<b>18</b>	<b>55</b>	<b>200</b>	<b>83</b>	<b>62</b>	<b>97</b>	<b>107</b>	<b>348</b>	<b>146</b>	<b>115</b>	<b>260</b>

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

## 地域別売上高および営業利益

(億円)	2023年3月期 4-9月期			2024年3月期 4-9月期			増減	
	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	営業利益 (△損失)
欧州	1,533	41%	10	1,623	39%	29	90	18
アジア	961	26%	114	1,071	25%	163	110	49
米州	1,247	33%	71	1,485	35%	129	238	59
その他 *	15	0%	△ 51	22	1%	△ 61	7	△ 10
合計	3,757	100%	144	4,202	100%	260	445	116

\* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

## 個別開示項目

(億円)	2023年3月期	2024年3月期
	4-9月期	4-9月期
係争案件の解決に係る収益 (△費用) 純額	27	9
有形固定資産等の減損損失の戻入益	-	2
リストラクチャリング費用	△ 1	△ 0
子会社の売却による利益	11	-
棚卸資産の評価減	-	△ 2
非流動資産の減損損失	-	△ 6
のれん及び無形資産の減損損失	△ 488	-
その他	1	△ 0
<b>個別開示項目 純額</b>	<b>△ 449</b>	<b>3</b>

# 為替レート・為替感応度



## 期中平均レート

	2022年 3月期				2023年 3月期				2024年 3月期	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
英ポンド	153	152	153	153	163	163	164	163	172	177
ユーロ	132	131	131	130	138	139	140	141	150	153
米ドル	109	109	112	112	129	134	137	135	138	140
ブラジル・リアル	20.6	20.8	20.7	21.0	26.4	26.4	26.5	26.3	27.7	28.6
アルゼンチン・ペソ	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用									

2024年 3月期
期初見直し
160
134
134
24.8

## 期末レート

	2022年 3月期				2023年 3月期				2024年 3月期	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
英ポンド	153	150	156	160	165	161	160	165	183	182
ユーロ	132	129	131	136	142	141	140	145	158	157
米ドル	111	112	116	122	136	145	132	133	145	148
ブラジル・リアル	22.3	20.6	20.4	25.5	26.2	26.7	25.7	26.2	29.8	29.5
アルゼンチン・ペソ	1.16	1.13	1.12	1.10	1.09	0.98	0.76	0.64	0.57	0.42

## 為替感応度

他の前提に変動がない条件で、為替レートが他の通貨に対して1%円高になった場合の影響額

	2023年 3月期
資本	30.0億円 の減少
当期損失	4.0億円 の改善

## 減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2023年3月期 4-9月期	2024年3月期 4-9月期	2024年3月期 見通し
<b>減価償却費</b>	<b>197</b>	<b>219</b>	<b>440</b>
<b>資本的支出</b>	<b>176</b>	<b>245</b>	<b>477</b>
通常投資	151	176	
戦略投資	25	69	
<b>研究開発費</b>	<b>46</b>	<b>49</b>	<b>100</b>
建築用ガラス事業	14	16	
自動車用ガラス事業	13	15	
高機能ガラス事業	5	4	
その他	14	14	



## 2023年5月～2023年11月 主なニュースリリース



2023年5月25日	公益財団法人日本板硝子材料工学助成会 第45回研究助成金贈呈式の開催
2023年6月15日	「NSGグループ Diversity, Equity & Inclusion (DEI) ポリシー」を策定
2023年6月22日	新型アルファード/ヴェルファイア エグゼクティブラウンジグレードに当社の防汚コーティング技術を施したバニティミラーが採用
2023年6月26日	ドイツ アーケン工場内の太陽光発電設備が稼働
2023年6月28日	ロシアにおけるジョイント・ベンチャーの売却および持分法投資に関連する利益の計上に関するお知らせ
2023年6月30日	真空ガラス「スペース®」が環境賞「50回記念特別賞」を受賞
2023年8月25日	SPP（サステナブル調達協定）のチャンピオンズ・リーグに加盟
2023年9月25日	フィンランド拠点で再生可能エネルギーによる電力購入契約（PPA）を締結
2023年9月27日	NSGグループ サステナブル・サプライチェーン憲章の制定
2023年9月28日	JAPAN MOBILITY SHOW 2023に出展 国内初公開となる次世代モビリティに対応した新製品も展示
2023年10月4日	超薄板ガラス「UFF®」と化学強化用ガラス「glanova®」当社初のSCSリサイクル認証取得
2023年10月10日	「世界最高水準」CO <sub>2</sub> 排出量を50%カット 建物の脱炭素化に寄与するLowカーボンガラスを欧州で新発売
2023年10月20日	統合報告書2023を発行
2023年11月1日	300μmの極細素子を用いたSELFOC® Lens Array「SLA 5EG」の開発に成功
2023年11月9日	マレーシアの太陽電池パネル用ガラス生産設備が稼働

2023年11月9日 | 2024年3月期 第2四半期決算報告

<https://www.nsg.co.jp/ja-jp/media> 35

# NSG

GROUP